

ぶどう膜炎 後期研修医プログラム

ぶどう膜炎プログラムは週に一度の外来で眼炎症疾患（ぶどう膜炎や強膜炎）患者を一緒に診察して、治療方針を考えることに重点を置いています。またローテート期間中に入院加療が必要になった場合も主治医として対応してもらうことになります。今後先生方が一人になっても外来で患者対応できるようになるための一助となればと思っております。限られた時間ですが、一緒に勉強しましょう。

期間：2 か月（外来 週 1 回火曜日およびぶどう膜炎外来から入院した患者の主治医）

到達目標

（初診患者）

問診： 系統立てて病歴が取れる

診察： 炎症の所見がとれる。所見から炎症の部位を明確にできる。

病歴および所見から、鑑別疾患を挙げることができる。

（再診患者）

診療録から患者の問題点を明確にできる。

所見から、悪化しているのか、改善しているのか病状を把握できる。

治療方針を決めることができる。

診察には以下の検査結果を評価できることを目標としています。

明室で充血の評価（強膜炎、上強膜炎の診察）

細隙灯

角膜後面沈着物

前房内 cell やフレア

虹彩結節

硝子体 cell、混濁

網膜血管炎、浸出班、出血

脈絡膜 granulomas

など

蛍光眼底造影検査（FAG、IA）および自発蛍光

OCT

視野検査など